



受動的な企業経営から能動的な経営への変化と提案

令和7年3月6日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

これらは受注を待つ受け身の経営から、能動的に売上を創造する新しい企業経営とビジネススタイルへの転換を提案するものである。

これらは、企業製品における優位性と独自性が与える可能性を企業が行うことは、企業の安定性を時代変化においても実現できるためである。

これらは市場や現実には左右されない売り上げの構築が、企業の製品の強さにおいて求めることができるためである。

これらは企業製品と生産体制における市場における企業の価値という判断とともに、強さという判断が企業へ与えられることを意味するものである。

これら企業環境が先端技術とシステムサービスの開発を有し、時代をけん引するとき、これら相乗するプラスの働きが最も優れた企業環境と現実を与えることができるのは正しいのである。

これらは受動的な受け身の経営から、能動的な創造性という挑戦への企業の転換なのである。

これら企業が先端システムを受け入れ、自らの現実の構築を求めるとき、時代という高揚と変化が、企業における可能性として与えられるのである。

これら企業の創造的な挑戦という、時代変化への参加の基盤は、企業がその時代の与える可能性を具現することなのである。

これらは企業風土の転換は、時代への挑戦を求めるものであり、過去への憧憬において未来を失うことではないのである。

これらが過去を離れ、未来に進むことであり、それが可能性を実現することなのである。